
バカと転生妹と不幸な学園生活

チルノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと転生妹と不幸な学園生活

【Nコード】

N4314Y

【作者名】

チルノ

【あらすじ】

神の手違いで死んでしまい転生することになった主人公。
転生先はバカテス！明久の妹、雄二の妹分としてのポジションで過
ごす彼女、しかし彼女の得た体質は凄まじいものだった・・

転生！（前書き）

今回のジャンルは主人公いじめ。では楽しみに！

転生！

私は、天童伊織。ごく普通の女子高生だった。そうだったのだ

「で・・・？ここはどこな訳よ・・・？」

気づいたら私は透明な空間にいて、目の前には申し訳なさそうにこちらを伺っている老人。

「あの・・・貴方は？それとここはどこですか？」

「あゝ・・・すまんのう・・・わしは神様じゃ。そしてここは神の領域、神界じゃ」

「神界？なんでここに？」

「・・・っ！すいませんでしたアアアアアアアアアア！！！！！」

いきなり、神様はとても気持ちのいいDOGEZAをしてきた。私は焦って、なだめる。

「ちょ・・・ちよつと！顔をあげて！どうしたのよ！！？」

「事情を説明すると長くなるんじやが。まず・・・お主は死んだ・・・」

「へっ・・・はあ！？死んだ？なんで！？」

「貴方の寿命の焰を私が手違いで消してしまい・・・その」

「わたしが、死んだと？ふん．．それで？私はどうなるの？天国でも行くの？それとも地獄？」

「いや、お前さんには平行世界に転生してもらう．．確かえ．．．そう！」

「バカとテストと召喚獣の世界に行ってもらう」

「え？何それ？漫画か何か？」

「んゝ知らんか？なら．．そうじゃのう多少の原作知識をやるうか？代わりに少し対価をもらうが．．」

「んゝ対価って？」

「．．．体質が少し変わるんじや。転生した後に．．」

「例えば、水難の相の体質で水に触れられなかったり、怪我の体質でよく怪我をするようになったりじやな？」

「んゝ．．．貰おうかな？どうせ一回死んでんだし？死ぬような体質はないでしょう？」

「ないな。それで？どの程度の知識が欲しい？」

「じゃあ．．神様が必要だと思っくらの知識を頂戴？」

「ふむ．．了解じや。とりあえず向こうは勉強が出来なければ行かん、じゃから侘びと言っては何じやが、天才的な頭脳と完全記憶能

力を授けておくからの。」

「え？いいの？んゝありがと！」

「では逝って来い！」

「んゝ．．文字違くない？」

そう言って私は意識を失った。

次に私が目を覚ました時あなるとは思わなかった．．

確認と新学期（前書き）

今回は、原作開始と体質や原作知識の確認などです。ではどうぞ！

確認と新学期

私は、今とても困惑している。なぜなら

衣織「ううゝ（赤ん坊になっっているからだ・・・）」

転生後私は、吉井家の末っ子、もとい明久の双子の妹として生まれ
た。しかし神様よ・・・

もう少し成長したところでもよかつたんでない？

あと私の名前は吉井衣織、漢字が違うが前世の名前が付けられた。

吉井母「よしよし、明久も衣織も元気に育ってね・・・ふふふ」

明久「うえ？うーうーうー・・・」

衣織「だぶだぶ（やっぱり母親ってすごいな）」

とこんな感じで私、生誕！

それから15年経った。原作開始である、文月学園二年生の始まり
である。

とりあえず、この15年で私の体質が分かった。

神様は、原作9・5巻までという現在発売されている前知識を私に
与えたようだ・・・oh

そのおかげで体質も厄介なものやラッキーなものが多い。紹介すると

・対老化体質

この体質のせいで、容姿が12才の口リっ娘なのだ。ちなみに私

の髪はツインテール、白髪、明久と同じ瞳の色だ

・精神幼稚化体質

これは、私の精神に関わらず私の行動が肉体年齢に準ずるというもの。上記の体質のせいで12才程度の精神になっている。

・魅力体質

これは、異性、同性関わらず、私を可愛い、大好き、ぺろぺろしたい！といった感情が湧きださせる体質。フェロモンの様な感じ？

その他e t c . .

と言ったように、私は数えるだけで120個の幸運体質と1つの不運体質があった。

その不運体質が後に私を悲劇に陥れた・・

まあ、置いとして二年生の始まりである。

衣織「お兄ちゃん！早く！遅刻だよ！」

明久「ごめん！わかってる！早く行こう衣織！」

まあ、早々に遅刻ですが。

西村「遅いぞ！吉井に衣織！」

明久「すいません！鉄」 西村先生「

衣織「ごめんなさい・・」しゅん

西村「吉井、今鉄人と言わなかったか？」

明久「気のせいですよ」

西村「あゝあと・・・衣織？あんまり気にするな・・・その、本気で怒ってるわけではないからな？」

西村センセがすこし悪そうな感じで話しかけてきた。精神幼稚体質のせいで私の口調はまんまロリなのだ・・・

衣織「はい わかりました」

西村明久「ぐう・・・！！！！笑顔が眩しい（ぞ）！？」

西村「んん！！まあ、とりあえずこれがお前たちのクラス結果だ受け取れ。」

私とアキ兄は封筒を受け取る。私は、テスト当日体質の一つの未調整体質で時たま発動する風邪のせいで結果は0点、つまりはFクラスだ。

西村「あゝ吉井、こう言っちゃなんだが俺はいままでお前の事をバカだと思っていたんだ」

明久「いやだなあ、先生。何をそんなバカなことを」

西村「ああ、だがお前の答案用紙を見て俺は気づいた」

明久「やっと気付いたんですか？あはは」

アキ兄が封筒を開ける

西村「吉井、お前は正真正銘のバカだ」

『吉井明久を”F”クラスに在籍させる』

アキ兄がその場にOTZの姿勢になった。

そして今私はアキ兄とFクラスへと向かっている。

途中で見たAクラスの設備は尋常じゃなかった。ちなみに代表は霧島翔子、縁あって私の姉の様な存在だ。

そして着いたFクラス、アキ兄を後ろに私は扉を開け、笑顔で言った

衣織「すいませ〜ん・・・遅れました・・・」

雄二「早く座れ、この蛆虫やろ・・・う？」

世界が制止した

そして次の瞬間、私はその笑顔のまま・・・

衣織「・・・」ポロポロ

涙を流した。くそう精神的には何も悲しくないのに肉体が子供精神にのっとして涙を流しやがるぜエ・・・

私は、泣いている姿を見られるのがあまり好きではないので

衣織「・・・ごめん・・・お兄ちゃん・・・グスッ・・・ちょっとトイレに行ってくるね・・・」トテトテ

その場を去った。

明久side

僕は朝から、Fクラス行きとなり沈んでいた。しかし大好きな妹、衣織もFクラスというのでかなり嬉しい！

まあ、衣織はその気になればAクラス主席など簡単に取れるのだけど・・・とにかくうれしい。

それでFクラスの扉を衣織が開けると中から覚えのある声が聞こえた

「早く座れ、この蛆虫やろ・・・う？」

これは僕に放たれた言葉ではない、目の前に居る最愛の妹、衣織に向かつて放たれたものだ。

衣織の顔をのぞくとそこには笑顔があつた。しかし次の瞬間

大きな瞳から、大粒の涙がぼろぼろ零れた。

衣織は、悲しいのかその場をトイレに行くと言ってそそくさと立ち去った。

ぷちっ・・・

そんな音がした。

「総員！坂本雄二を血祭りに上げろオおおおおおおお！！！！！！

「！！！！」

「「「「「「 おおおおおおおおおおおお
おおおおお！！！！！！！！！！」

Fクラスは団結した！

「この野郎！よくも衣織ちゃんを！」「あの笑顔を！」「傷つけたな！！！」「万死に値する！！！」

「すまん！明久だと思ったんだっ！痛っ！ちよっ！ごはっ！ぎゃあ
ああああああ！！！」

数分後、帰ってきた衣織が止めるまでその暴動は止まらなかった。

確認と新学期（後書き）

どうでしたでしょうか？うまく行けてればいいなあ！

衣織「これ私、ハーレムいけんじゃね！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4314y/>

バカと転生妹と不幸な学園生活

2011年11月17日18時14分発行